

「京都市で産消提携活動、酒米「祝」の田植え体験が行われました。」

酒米「祝」の田植え体験が5月14日に京都市西京区大原野で、5月28日に伏見区洛南で、6月4日に右京区嵯峨と伏見区向島など管内各地で行われました。

「祝」は京都で生まれた中生のオリジナル水稻品種です。昭和8年に京都府奨励品種になり、昭和11年には646haで栽培されていました。長い草丈であり、機械化に適さなかったため、昭和49年から生産が途絶えていました。しかし、平成4年から酒造メーカー、生産者、行政が復活に取組み、栽培が再び始まりました。

西京区大原野で平成28年に生産された酒米「祝」を原料とし、伏見の酒造会社キンシ正宗（株）の協力を得て、今年6月から純米吟醸酒「藤袴」が販売されていますが、なんやかんや「大原野」推進協議会酒づくり部会では、平成29年から新たにオーナー制の試行を始め、5aのほ場で田植え体験会を実施しました。

「普及センターから、酒米「祝」の歴史や酒米と一般食用米の違いを説明してもらい、よくわかった。」などの声が聞かれました。秋に稲刈り体験会、1月には酒蔵見学会が予定されています。普及センターは、当部会への栽培技術指導を行っていきます。

